

## 令和3年度第二回三段以下審査会講評

市川 学

コロナ禍、オミクロンにかわる変異株が心配される中、3月21日、東京武道館第二武道場にて審査会がおこなわれました。先生方、役員の方々には感染予防等頂き感謝申し上げます。

初段は72名受審、69名合格で95.8%、二段は28名受審、26名合格92.9%、三段は32名受審、100%合格でした。

審査員として、いくつか気付いた点を申し上げます。

初段では、礼法での刀の鐙を引かずに真横に置く人、帯刀で右手を添えていない人、終礼でも左手を添えず、右手のみで帯から引き抜く人など不十分な人が見られました。師、先輩に礼法を見て頂くことをお願いします。

技前では指定技の、1、4、6、9、10のうち9本目添え手突き、10本目四方切での足捌きを間違えている人が見られました。これは稽古不足です。家の中でも刀を持たずに稽古できます。初段は繰り返し稽古を重ねて形を覚え込むことが大切です。

二段の指定技は、1、3、6、10、12で。初段を頂いてその上の二段を目指し、より正確に形を習得する時です。3本目受け流しでは敵の位置が不正確でした。引き足の位置が深すぎたり、浅すぎたりしました。袈裟の切も浅い人が多く、師、先輩に指導を受けて下さい。6本目諸手突きは前足が内に入り、体が崩れていました。初段から二段までは、1年間しかありません。その1年で二段の修行をすることとを考えてください。刀が抜けなくともできる稽古はあります。自分で自分に向き合い正す稽古は苦しくとも楽しいものです。

三段では指定技は二段と同じで、二段習得後の二年間の修行が比較的できました。しかしながら。立ち姿のバランス、前に突込んで立っている人、体捌きの乱れとなり形の乱れを生みます。二段の人より三段の人の方が修行する心が見られました。100%合格に甘えず、四段を三年後に受審する修行をさらに行うこと。その修行する心が大切なことと思います。そこを理解して頂き、それぞれ次回の審査会に向けて稽古していただきたいと思います。